

高山町内でため池の土手補修 維持管理困難 防災上の課題



土手の補修を終えた高山町内の大床池

農業用水確保のために作られたため池が、伊野地区には大小さまざま、無数にある。

いずれも、米作り振興のために近隣農家や複数の集落による共同事業として取り組まれた歴史的経過があるだろうが、史料が残っていない今となっては、先人の苦勞に思いを馳せることしかできない。

農家数が激減した今日、小さなため池はほとんど放置されている。大きなため池も維持管理が難しくなっている。

高山町内では10月28日(日)、大床池の水利

権者が集まり、土手の補修を行った。この池は2～3年に1度、水を抜いて補修が行われている伊野で唯一のため池だ。かつては、直径60センチほどもある平たい石をロープで結び、端っこを持った数人がかけ声とともに石を持ち上げては土手にたたきつける重労働であった。今は、道路舗装に用いる機械で行っている。

今年、広島・岡山を襲った豪雨災害では、ため池が決壊し甚大な被害が出たので、国は来年度から取組を強化する。